

## 傘寿・叙勲 記念講演要旨

八十才なんて大変な年寄りだ、と書いていましたがそうやって見ると、少年十才頃の気持ちと少しも変化も成長もしてないな、と思うこの頃です。空を見上げて行く雲を眺めながら、自分はいったい何なのか、何故自分はここにいるのか、大人になればそんなことが分かるのか、と思ったことは何度もありました。

でも大人を通り越して老人になっても、同じ空の雲を見て 70 年前と同じ感情が湧くのですから、一体そんなに時間をかけて人生を生きて来てもサッパリ「成果」は無かったわけですね～～～！

今日ここに集まって頂いている皆様は殆ど全員が私からみれば後輩、若者です。皆さんにお話しすることは以上でオワリ、この一言で人生をお教えしたつもりでも良いのでしょうか、ま、時間もまだあるし、蛇足もないと話になりませんから、もう少し続けましょう。

いつもダラダラと取りとめなく話して終わらない、という悪癖を避けるために、話題を分けて見ました。

- ① 年齢、時間、について。 年を取ると時間が早く経つか、ジャンネーの法則？
- ② 褒章について。 一億円の大賞を振ってキノコ狩をしてる、ペレリマン氏。
- ③ 宗教について。 おられる証拠が無いのが神様の証明？
- ④ 哲学について。 これ以上役に立たない学問は無い。けど、一番大切？
- ⑤ 自然科学・論理学。 すべてを理屈で説明できるか？理屈という土俵が無くなったら？
- ⑥ 芸術について。 人口知能（AI）は星を美しいと思うか？教えたならそう思う？
- ⑦ お金・経済学。 世の中お金で解決しない事が五つある？日本永代蔵、西鶴。
- ⑧ 法律・倫理学。 原因と結果の追求。シネ・クア・ノン：アレ無ければコレ無し。
- ⑨ 食物とエネルギー。 人間 1 人は 100 ワット。象 1 頭は 5 キロワット。人口爆発の現状。
- ⑩ 始まりと終わり。 始めに言葉があった・・・終わりに言葉が消える？

では始めましょう !! *افتح يا سمسم* イフター・ヤー・シムシム!!

① **年齢とともに時間が早く過ぎる** と古くから人は感じて来た様子です。19 世紀末のフランス人ジャンネーさんもその 1 人。人がそう感じる理由をここでご披露しましょう。

一時流行った「モモ」の話じゃないけど、人間もイヌも猫も寿命があって、オギャーの頃にはタップリ時間を持ってるけど、いつの間にか灰色の男に盗まれていって、老人になると急に残りがあまりナイことに気づく。という原理が働きます。

コレお金で考えると分かりやすい。サイフに 100 万円あれば、気が大きくなって、自由に無駄遣いを誰しも楽しめます。どんどん浪費して残りが数万円になって来ると、ちょっと気づいて少しケチになる。で、残り千円、となるとこりゃイカンと一円一円が大切になる。つまり 100 万円持っていたときには問題にもしなかつた 1 円のネウチが大幅にアップ、使い果たす寸前にはネウチが無敵大。という原理です。

何事も、量が多いときは 1 個、1 リットル、あたりのネウチはその時にある量の逆数に比例する。リンゴが箱の中に 100 個あるときに 1 個のネウチは 1/100 1 個しか残ってない時には 1/1 です。だから同じ 1 個のリンゴのネウチは本来変わらないはずなのに、人が感じるネウチは 0.01 から 1 まで 100 倍に増えてる！

年齢に戻って考えて見て下さい、寿命が尽きそうな 80 才になると 1 日、1 時間、1 秒のネウチがご来場の若者の皆さんに較べるとズ～～～と大きいんですね。だからこの講演を聴くのに使った 1 時間も高齢者ほど「しまった、時間のムダだった！」と恨めしく思えるのです、スママセン！リンゴもお金も余命も、残り少なくなると早く無くなる！

蛇足を加えると、年齢、お金、リンゴ、で話した数量のネウチをエネルギーのネウチに置きかえて考えるのがエントロピーという概念です。エネルギーは目に見えないので、感じられる尺度として温度が使われます。温度が高いとは 1 個のサイフに沢山お金（エネルギー）がある、



のと同じことです（フトコロが暖かい）。エネルギーを使えば温度が下がる、エントロピーは増大する。「エントロピーとはエネルギーのネウチの表現」なのですが、エントロピーは小さいほど大きくなれるのですからエネルギー利用についてはエントロピーが小さいことが望まれます。これ、年を取りたくないと思ふ、1円のネウチが小さい（お金持ち）状態になりたいと願望する、のと同じ原理です。こんなにカンタンなことが理解されなくて「エントロピーを理解している人は一人もいない」という有名学者の言葉が知られています。

② **褒章をこのたび頂戴**したので、褒められるということについて考えてみました。褒められるということは誰か褒める人がいなければ成り立たない行事ですね。ノーベル賞委員会、というものがあって誰に賞をあげるか毎年会議で決めるようですが、外れて悔しい、もらって嬉しい、と思ふのは委員会の業績査定力を信じていることになります。

本来、賞をあげると言われなくても自分のネウチは自分がよく分かってるはずなので、そんなモノもらわなくても、オレの仕事のネウチがスゴイことは分かるとる！という態度こそ立派なんだ、という気持ちがしても不思議ではナイでしょう。

そのためか自分がささやかでも褒章を受けて見て、何となく恥ずかしい気持ちは避けられない気分です。もちろん、ありがたい事ですから、感謝していますが。褒められたときにいつも思い出すのは、ペレリマンというロシア人です。数学の世界でトップといわれるフィールズ賞に選ばれた時に、連絡者がオメデトウを伝えようとしても居場所不明、家にはお母さん一人いるだけで、聞いたら「森にキノコ狩りに行ってます」という返事。ようやく又聞きで本人の意見を伝え聞いたら「オレのやった事は長年の懸案を解いただけで、大したことではナイ」と言ったらしい。これも理解出来る話、長年エライ数学者がやっても出来なかったことをスッパリと解いた。ことよりも、それが問題だ、と問題を提起した方が発明者としての嬉しさ、喜びは大きいだろう、ということでしょうか？気になるペレリマンさんです。

さて以後は、社会が社会として動いていく為欠かせない諸々の事について、それが何を問題としてその分野が存在するのか、一言で分かったつもりになろう。という、飛んでもないチャレンジを書いて行きます。異論あるでしょうが、ガマンして老人の一言を聞いてください。

③ **先ず宗教ですが** 神とか仏とかいう概念は古来のどんな人間社会にも存在しているようです。生物の中で人間だけは「なぜ？」という疑問を何事につけ問う、という性質をもっています。そして答えの得られない問い「自分とは何か、なぜここにいるのか？」に対するこたえをヒネリ出すことは不可能ですから、我々の存在を超越した存在があると信じる行動が必然的に起こった。これが宗教でしょう。

そうあるべくしてある、けれどもそれが何か説明はできない。これ面白いですね、答えは絶対に無いけれども問いは厳然としてある。なんて普通の“科学的”説明に明け暮れる生活からの心地よい逸脱です。

そんなこと今更いわなくてもこの事態を一言で述べたラテン語

**「Credo Quia Absurudum:**

**クレド・キア・アブスルドゥム：馬鹿馬鹿しいからこそ私は信じる」**

は有名ですが、これは紀元 200 年代初めにテルトリアヌスというキリスト教者が書いた言葉です。解釈は多様ですが、この言葉は日常の生活には使えないけれども、神について考えるなら日常を超越してこそ神だ、という超自然に対する「理屈」でしょうね。

神の何たるかは道教（老子流の無の道を基本とする宗教？）なら道が神でしょうか、老子第 42 章に「道生一 一生二 二生三 三生万物、（道は一を生じ、一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生ずる）」とありますから、万物の始原は道ですね。

古代ギリシャの神も「第一動者：The first mover：prime mover）すべての物事を始動させた者、らしいです。神を造ったのは誰か、それを考えていけない存在：神、を考えるのは理屈では不可能なことが分かります。疑問として残る問い：人間がいなければ、神様もいなくなる？

④ **神様の次は哲学** です。どうしても解決不可能な問い「なぜ？」の答えを、神、を持ち出さずに見つけようとするのが哲学でしょう。解決不可能な問いは必然的に数でいえば無限大、あるいは0とは何かの問いに行き着きます。極限はどうなってるのか、それは日常的な大きさと何処が違うのか？を考えなければなりません。

何も無いのが真空ですが、実験屋の私は真空ポンプで容器内のガスを取り去って真空を作る作業を飽きるほどやって来ました。どんなに頑張っても残存気体を完全に除去はできませんが、仮にそれが出来たと仮定しても、真空になったのは数リットルの容器内だけです。これを1個の真空、と見れば、そんな容器が2個あればそれは真空2個ですね。チョット気体を注ぎ込めばいつでも破壊できる真空,0,です。極限を考えるなら、そんな容器が無限にあって、それが全部真空ならそれは哲学者の好む言葉で「絶対真空、絶対無」と言えるでしょう。つまり、その中にいくら気体を注ぎ込んでも真空はビクともせず、真空のままです。という状態です。

これでアッソウかと納得しては哲学になりません。真空の逆について考えると、気体分子1個(1モル)の体積を無理矢理に0に圧縮したら、密度は無限大ですね。真空の反対だからそれを“真密”と呼べば、真密も1個、2個と数えられるでしょう。で、無限個の真密があればそれは絶対真密、“絶対有”となります。いくら空間を与えてもビクともしないで真密のままです。という状態です。

そこで更に、注ぎ込んだ無限量の大きさについて考えて見ましょう。数の大きさは1,2,3,... $\infty$ 、と大きくなるのですが、このような増え方で到達した無限に対して、その数を数字の2の肩にのせて、 $2^1, 2^2, 2^3, 2^4, \dots, 2^\infty$  と2の何乗という大きさを数えた時に到達する無限大の大きさを比較して見るのです。

$2$ の $\infty$ 乗をただの $\infty$ で割った数、 $2^\infty/\infty$  は無限大なんですね。普通の無限大を普通の無限大で割った  $\infty/\infty$  は0とか1とか、ハッキリとはきめられなくても少なくとも無限大では無い。けれども  $2^\infty/\infty$  はハッキリと無限大です。

これは難しい、と思わずにチョット数えてみると、普通の数え方で1000という数はほぼ  $2^{10}$  です。100万=1000,000 は  $2^{20}$  です。だから  $2^{1000}$  の大きさは、1,000,000,000,000,... と1の後ろに0が300個続く数になります。1000は0が3個なのに、 $2^{1000}$  は0が300個！10000なら0が4個ですが、 $2^{10000}$  は0が3000個続く数です、それこそケタちがいに大きいことが分かりますね。いわんや  $2^\infty$  が  $\infty$ とどれ程違うか、それらの比が無限大らしいことは推測できます。

こんな、無限より大きな無限の存在を指摘したのはドイツ人のカントールという19世紀末の数学者でしたが、あまりに当時の常識とかけ離れていたのも、皆に非難されて大御所の数学教授にアカハラ(アカデミック・ハラスメントいじめ)されてノイローゼで死んじゃった。人よりあまり進み過ぎると返って認められない好例になってしまったわけです。ご用心ご用心の話、史実です。

ここまでは現在ではどの教科書にも書かれていますが、さて、では何処まで大きな無限があるのか？は明快には説明されていない、結局、空を見上げて雲の流れを追って嘆息するしか無い状態らしいです。さらに、大きい方ではなくて小さい方はどうなってるのか、これも教科書には触れられていませんが、 $1/\infty = 0$ 、の0と、 $1/2^\infty = 0$  の0とが同じものか？という気もします。あ～あ・・・ですね。

こんな事を考えるのが哲学でしょうけど、これ一体何の役に立つの？と聞かれるでしょう。そこで普通の哲学者が「放っておけ、好きでやってるんだ」と言ってもバカにされるだけでしょうから、その時には、アリストテレスの「形而上学」第1巻第2章に

「(哲学は)これ以上役に立たない学問は無い。けど、一番貴い」

と書かれています、と答えるのが良いかも。

結局一言で言えば、最終的答えのないのが「哲学」なのでしょうが、これは宗教と同じです。神はそれが神であると証明されたら神でない、哲学に最終結論が出たらそれは哲学ではない。

⑤ **自然科学は理屈の上**に立った学問ですから、それが何処まで信用できるかは、論理学がどこまで適用可能かを確かめる問題になります。理屈のコネ方の学問すなわち論理学は19世紀

に数式を使って説明する方法、数理論理学が考案され、これを使えば何事も数式でカンペキに説明・証明できると思われました。ところが、19世紀末に

「俺はウソをついている」

という一文はウソか本当かを証明する方法がナイ、というギリシャ時代からの理屈が再提示され、論理学、数学の世界に衝撃を与えました。

結局、論理学、数学は「分かっていることしか証明できない」らしいというのが現状です。というか、これが現状であるのはチョット考えても分かりますね。前述の神様、哲学、とオンナジで「それが証明されたらそれは誤りである」ということなのです。

しかし科学は自然の完全なルールの上で成り立っているのでは無いけれど、日常的な常識たとえば「この紙は白い、と同時に黒い。ということは認めない」の上に立って築かれているのですから「常識的」な範囲では極めて有用なのです。

実用に役だつ科学ですが、新しい原理や新しい発見は従来の知識の組み合わせや応用では出来ないのですから、どうして科学は「進歩」できるのでしょうか？それは「夢のお告げ」に頼る他ない。というのがコレ又現状です。そんなこと信じられない！と思うのも結構でしょう、それほど「科学」は進歩して便利な機械やシステムの製作を可能にしているからです。しかし、ささやかでも自分で実験したり、理屈を考えた経験に照らして見ると、ナルホドあんなアイデアはどの教科書にも無かったけれども、フト思いついて実行したら出来た！という気がします。ま、土俵の上でルールに従って相撲を取っている場合はゲームの世界で楽しいですが。土俵を決めずに相撲を取るとなると、「夢のお告げ」に頼るしか新手は生まれないのでしょいか〜〜？

⑥ **芸術について** 科学の次にイキナリ芸術です！これらは相対するものである気もしますが、前項に触れたように、原因の分からないインスピレーション、が大切な点では似ていますね。プリゴジンというノーベル賞を受けた学者の講演を聴いた事がありますが、「非平衡論」という研究は理解というか納得出来なかったけれど面白い一言を覚えました、

「科学的成果はアツく驚くような結果も、しょせん皿の中のイチゴを見つける、という程度の事でその内誰かが必ず見つけることになる。けれども歌劇ドン・ジョバンニの曲はモーツァルトがいなかったら決してこの世に生まれなかったことは確かである」

というのです。芸術という言葉でここで絵画や音楽に限らず、技芸、文学などあらゆる人間活動で直接「生きるための行動」や理屈付け、に関係ない活動を含めて使うことにしましょう。

源氏物語も枕草子も万葉集も、確かに我々に感動を与えてくれ続けていますね。科学とは大いに違います。

春はあけぼの やうやう白くなりゆく山ぎわ  
少しあかりて 紫だちたる雲の ほそくたなびきたる

なんて清少納言が書か無ければ、今、春に京都北山を眺めて味わう気分もちがっているだろう事は確かですね。芸術とは、カボチャのへたに感動する気持ちを起こさせるものである。と言った人もいるかも〜〜？

自然を模倣して生まれた芸術（アリストテレスは詩学という本にそう書いている）は“自然に”こんな事態、つまりどんな自然の事柄、事象に人間が感動するか、それは人間が造ってきた芸術によって自然の中で際立つ、という事態になっている様子ですね。それを一言で印象深く表現した言葉が知られています。

自然が芸術を模倣する〜？オスカー・ワイルド  
Life imitates Art (Decay of Lying)

そこでもう一考察、今流行の人工知能（AI）ですが、あんまり流行語になったのでウロタエて、もうすぐAIが人間をしのいで王様になり人間がコキ使われる。と心配する“有識者”がおられる様子です。そうすると芸術はどうなるでしょうね。AIが勝手に星空を眺めて「美しい〜！」と感動するのでしょうか？AIは人間が造ったもので、人間は神様つまり自然が造ったものですから、AIももちろん自然の産物です。AIも絵を描くし、音楽も作曲する、その内小説も書くでしょう。そんなAI芸術を見て改めて自然の美しさに感動することもありそ

う？でも、カボチャのヘタの絵を描くというアイデアをAIが思いつくかどうか？

独創的アイデアは人間も「夢のお告げ」でなければ思いつかない、と先述しましたね。となると、問題は、AIは夢を見るか？というところに行き着きます。結局神様ですね、夢の神さまモルペウスがAIに夢を与えるか？今のところ私は人間やイヌ猫にしか夢見る思いは無いと思いますか？

## ⑦ お金について

「人は生まれながらにして利を好むことあり、これに従う」

という古代中国の荀子（ジュンシ）さんの言葉、アダム・スミスさんも1776年に書いた国富論に「人は自分の利益になる時だけ本気で働く、世のため人のためと言って商売する人が本当に社会貢献した例を私は知らない」と書いておられます。井原西鶴の日本永代蔵の第一話には

「銀徳（お金）で解決出来ないことは天下に五つしか無い」

と書かれています。彼独特の洒脱流ですからその五つが何かは書いてありませんが、雰囲気はわかりますね。

前述しましたが、お金1円のネウチはお金が貯まるほど少なくなるのでしたね。で、経済学とは如何にして世の中のお金持ちが持続的に、儲かった儲かった、と喜ぶ社会が作れるかを研究する“学問”です（ピンボー人は、ほんの少しお金を恵めば大喜びするので問題にならない）。それで百億円もってる大統領が毎年1億円儲かっても嬉しく無い。喜ぶためには百億の5%位は少なくとも毎年儲からないと実感出来ない。今年5%儲かっても来年又喜ぶためには今年儲かった5億円プラス元金（105億円）の5%、という儲けの“成長率”のキープが喜び持続の要点なのです。

それで、そんなに成長し続けてみんなが儲かりつづけて経済が無限に膨張したって、それを支える資源も人力にも限度があり破綻は必定ですね。そんな事は経済専門の“有識者”はとっくにご存じで、逃げ道はちゃんと日銀総裁が設定している。すなわちインフレです。インフレになればお金のネウチが下がるのですから、毎年5%の儲けだ～と喜んで、ネウチが下がれば実質儲けはナシ、で結局喜ばして、根こそぎ取る。という絶妙の工夫に頼る、ツモリでいるのが世の中を動かす人々なのでしょう。でも、そんな人間やAIの考える工夫通りに行かないのが“自然”の原理ですよ。自然は芸術を模倣するそうですから、政治家も“経済人”も音楽、絵画、小説を楽しんで、起こるべくして必ずおこる大恐慌に備えるのが良いかも～～～！

⑧ 法律、倫理学 の根幹の一言は何だろう？何でも一言以上は頭に入らないキャパレス頭脳の持ち主として悩んでみましたが、辿り着いたのはラテン語（ローマ法？）でした。

それは、

**Sine qua non** : シネ・クア・ノン : アレ無ければコレ無し

というのです。法律はとにかく社会秩序に反する行動をした者を懲らしめるルールなのですが、オマエはこんなに悪いことをした、証拠はコレだ！と詰問してその者が「だって私がソレをやった原因はコレです、私には直接責任ありません」と言ったら困りますね。どんな悪い行動、良い行動にも原因があり、その原因を辿り始めたら原因の原因・・・となって、果たして桶屋が儲かったのは風が吹いた為か、風を表彰しよう・・・という事態は避けられません。

法律上は「直接原因」者だけを罰するらしいですが、これも何をもって「直接」と判定するのか、エライ裁判官様もお手上げであることは明白で、その証拠が「裁判員？」制度です。くじ引きで私のような全くの門外漢にも何が直接原因か？なんて判定が回ってくる可能性があるんです～困りましたですね～。でも困っても余っても結論がなければ社会が維持できない。

とにかく、先述のように神様問題、哲学問題、科学の根本、にも「証明出来たら間違いだ」という難問（ギリシャ語で **ἀπορία** : アポリア）がデ～ンと居座っているのですから、法律学も悩まず先に進め～！と大本營の方針に盲従はシカタガナイのですね。ちなみに大本營なんて言葉80才のジ～さんにしか分からなくなっているのは幸いです。先の戦争（応仁の乱ではなくて第二次大戦）の時の日本国戦争推進本部のことです。忘れたいですね～。

紙数が尽きたので、法律の目的である倫理維持の根本である倫理学も一言でやっつけましょう。

「己の欲せざるところを人に施すなかれ」 論語

「自分がして欲しいと思う事を、他の人にしてあげなさい」 聖書

上記の2つの文章、チョット(かなり?)ニュアンスが違いますが、ま同じだとしましょう。西洋ではこれは「黄金律: Golden Rule」と呼ばれていますが、これが書かれた頃に人間の社会が発達して、秩序維持には自分と他人の関係を考慮する必然性が生まれたのだ、と見られます。コレさえ守れたら学校で道徳教育する必要はありませんね。自分でするのがイヤなことは、誰かがする～と知らん顔。身につまされますね～～!やはり道徳教育は大切か?

⑨ **食物とエネルギー** 食物はエネルギーだ、人間は自動車と同じくエネルギー補給なしには動けない。で、中学校では必ず人間が1日に必要とするエネルギー量を基礎代謝量、として教えますが、適当にそれは2000キロカロリーだ、と教えてハイ終わり。どの生徒もカロリーなんてシラン、ジュールもワカランで実感なし。生徒が実感できるように、1日(86400ハロヨン秒)に2000キロカロリーは1秒23カロリーに相当する。1カロリーは4.2ジュールであり、1秒に1ジュールのエネルギー消費率は1ワット、と呼ばれるのだから、

人間が1人生きるタメには約100ワットの電球が点灯しているのと同じエネルギーが必要。

となぜ教えないの?ちなみに1馬力という言葉は750ワットのエネルギー消費率のこと。だから人間7.5人分の力が1馬力なんですな。

それで、陸上の最大の動物、象さん、の基礎代謝量は5キロワットくらいだそうです。でも実は現代社会では人間も“文化的”に生活するために1人5キロワットくらい(象の代謝量と同じくらい)のエネルギーを消費(浪費)しているのです。

マルサスという人が1798年に「人口論」というエッセーを書いて、そこに、このままの社会生活を続けたら人口が爆発して社会が持たないだろうと指摘しています。世界人口は今約70億くらいですが、エネルギー消費率から言えばこれは地球上に象が70億頭生きてることになります。石油だ、石炭だ、事故が起こっても原子力だ、とエネルギー源にしがみつかなければ社会が維持できない?ということはマルサスの心配した人口爆発が現実に行っているということです。政府はなにをおいてもエネルギー節約・倹約を奨励する義務があるのです。「倹約と幸福」という本を書いた人には文化勲章を!倹約せよとの説教では無いデスヨ。少なければネウチが上がるという話の続きです、己の利のための倹約だ、ということです。

実は太陽エネルギーは70億頭の象(人間?)を養うに十分な量が地球上に降り注いでいます。これを上手に安価に電気エネルギーに変換する技術は必ず開発可能です。全力を挙げて政府はその技術開発に投資すべきです。それが成功するまでは家に籠もってテレビも見ずに思考に耽る、という仕合わせな生活を国民に勧める他ありませんね～～!

## ⑩ **始まりと終わり**

どうでしょう旦那!世の中すべてのことには終りというものがあるんですな。

*Que voulez-vous, monsieur !... tout a une fin en ce monde.*

この文章はアルフォンス・ドーデーの「風車小屋だより」第一話(コルニーユ親方の秘密)の締めくくり。全盛を極めた風車製粉所が蒸気製粉所にとって代われ、プロヴァンス地方から消えてなくなったイキサツの描かれた小話です。終わりがあるなら、始まりもあるはず。始めに言葉があった(Ev αρχη ην ο λογος)と聖書には書かれています。では終わりには言葉も風車のように消えて人間もいなくなるのでしょうか?風車や言葉なら分かる?かもしれないけれど宇宙の始まりは、となると分からない。普通はビッグバンだ、と教えられますが、ではその前は?ということは聞いてはいけない雰囲気です。話は当然、時間、の問題になります。時間とは何か?誰にも分からない「不思議」これも結論がでたらソレは間違いかもしれません。

さて、最初の一言から沢山の蛇足を展示?しましたけど、空を仰いで嘆息~できるのは人間だけの幸せでしょうね。感動は前進、満足は後退です、若者の皆さん、感動を大切に!!

人生、苦しく生きても、楽しく生きても、結局「分からない」ことだらけ。と講演要旨に書いたつもりです。

「分からない」を実感するために、真面目、不真面目、を混ぜっこにした、クイズ集（試験問題）を下記します。講演中に話しますので、この問題用紙に正解を記入して下さい。

解答は次頁に書きました。

問① !! **افتح يا سمسم** これ、我々皆が知っている言葉のアラビア語原文です。何という言葉でしょう？ヒント：誰もが読む物語集にある。

問② 天下六無斎とは江戸末期に「海国兵談」という国防論を書いて幕府からお咎めを受け、自費で作った印刷用の版木を没収された人、林子平。

「家も無く、妻なく、子なく、版木なく、金も無けれど、□□□□も無し」と言ったそうです。4個の□に平仮名を入れて下さい。

問③ 論語の言葉「勇者不懼、智者不惑、仁者不□」勇者はおそれず、智者は惑わず、仁者は何をしないのでしょうか、漢字一文字を□に入れて下さい。

問④ 樫の木が6本あって、おサル5匹がこれに同時に登る方法はあるか？

問⑤ これは真面目な計算問題。ペレリマン（講演要旨に書いた人とは別人）さんの書いた「面白数学」と言う本から。

キャンプ場で昼食を作るために、Aさんが薪を5本、Bさんが薪を3本もって来た。Cさんは急いで来たので薪は持参しなかった。火を起こして昼食を作り食べ終わって、Cさんが、スマン薪0本持参なので薪代を払うよ、と「8コペイカ」のコインを残して行きました。

さて、この8枚のコインは、Aさん□枚、Bさん□枚に分けたら公平だと思えるのですが～。□に数字を入れて下さい。ヒント：5枚と3枚、ではありません。

問⑥ 短歌二つ。

「世の中は 憂き身に沿える 影なれや、□い捨つれど 離れざりけり」源俊頼

「聴くたびに 珍しければ ほととぎす いつも□□の 心地こそすれ」永縁（ようえん）僧正

小学2年生の女の子（みなこちゃん、まりかちゃん）の歌をおまけに、

「雪は□になったら 白くて □になったら きらきら光る」

「ケシゴムは 消せばどンドン減っていく いやだ いやだ と□から落ちた かわいそう」  
コタエ 朝、夜、机。

問⑦ うたた寝に 恋ひしき人を 見てしより □てふものを 頼み初めてき 小野小町

解答者名前

解答 ① ② ③ ④

⑤ ⑥ ⑦ 答えは夢

コメント

Since in a nap I met him I secretly love I started to long for dreaming. Heta na honnyaku.

クイズの答えは

①アラビア語は「開けゴマ！」

②は「死にたく」

③は「憂えず」

④は「六桎五猿。難しござる」

⑤は「Aさん7コペイカ、Bさん1コペイカ」

⑥は「思い捨つれど」「初音の心地」

⑦は「夢」

です、ご質問あればどうぞ京都エネカンまで。